

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2497 号

Evaluation of the outcome of long-tube shunt implant surgery in uveitic glaucoma patients by analyzing the background of uveitis

ぶどう膜炎患者の背景分析によるぶどう膜炎続発緑内障に対するロングチューブシャント手術の成績の評価

渡邊 慧 (わたなべ さとし)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、ぶどう膜炎続発緑内障に対するバルブをもたないロングチューブシャント手術の治療効果をぶどう膜炎のタイプや患者背景ごとに評価した臨床的意義のある論文である。ロングチューブシャント手術単独ないしは線維柱帯切除術併用の同手術を行ったぶどう膜炎続発緑内障 45 眼のデータを肉芽腫性ぶどう膜炎/非肉芽腫性ぶどう膜炎 (37 眼/5 眼)、ステロイドレスポonder/ノンレスポonder (19 眼/13 眼)、開放隅角緑内障の背景あり/なしに分類して後ろ向きに検討している。その結果、ロングチューブシャント手術単独ないしは線維柱帯切除術併用の 5 年生存率は 66%と 100%、肉芽腫性と非肉芽腫性ぶどう膜炎の生存率は術後 6 年で 81%と 100%であり、ステロイドレスポonderとノンレスポonderの 5 年生存率は、74%と 78%であった。また、すべての肉芽腫性ぶどう膜炎患者またはステロイドレスポonder患者に必要な応じて術後ステロイド点眼を継続しても、眼圧上昇を認めた患者はいなかった。本論文は、チューブシャント手術がぶどう膜炎による続発緑内障の眼圧コントロールのみでなく、術後のステロイドの持続点眼を可能にするという臨床上の重要な点を明らかにしている。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。